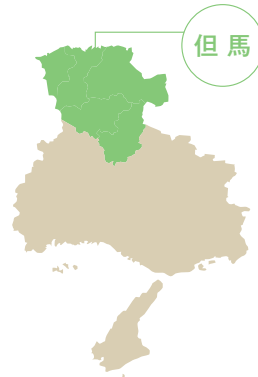


# 但馬の魅力

## 「山陰海岸ジオパーク」はじめ豊かな観光資源

兵庫県北部に位置する但馬は、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町の3市2町で構成され、県全体の面積の約4分の1を占めています。豊かな自然に囲まれた但馬地域は観光資源にも恵まれ、スキー場、海水浴場のほか日本遺産に認定された「鉱石の道」が注目を集めています。

「山陰海岸ジオパーク」は2010年10月、地質



ユネスコ世界ジオパークに認定された山陰海岸。玄武洞では六角形と柱状の複雑な割れ目の玄武岩が、不思議な景観を生んでいる



明延鉱山の選鉱施設として建設された神子畑選鉱場。産業遺産としての注目が高まっている

や地形に表れる地球の歴史を学び、楽しむ地域を振興する世界ジオパークネットワークへの加盟（国内4カ所目）が認定されました。山陰海岸ジオパークは京丹後市の東端から鳥取市の西端までの東西約120kmの範囲に広がるエリアで、但馬地域では豊岡市・香美町・新温泉町が含まれます。

日本の近代化をけん引してきた、生野鉱山、神子畑鉱山、明延鉱山などをつなぐ「鉱石の道」と、姫

路港と生野鉱山をつないだ「銀の馬車道」が、2017年4月、日本遺産に認定され、産業遺産を活用した誘客、地域活性化の取り組みが行われています。

1300年の歴史を持ち、7つの外湯につながる大<sup>おおたにがわ</sup>谿川沿いに風情のある温泉街を形成する「城崎温泉」、98度の高温かつ豊富な湯量を生かし、調理や洗濯など、古くから温泉を生活に利用してきた歴史を持つ「湯村温泉」、江戸時代には城下町として栄え、今なお当時の街並みが残されている出石周辺など自然と歴史が感じられる観光資源も多くあります。

さらに、神戸ビーフの素牛である但馬牛、ズワイガニをはじめ食材豊かな土地でもあります。

## 子どもから舞台芸術に触れる機会を

豊かな食資源を生かした食品産業、温泉などの観光業が盛んな但馬には、多くの地場産業も根付いています。その一つが豊岡靱です。大手かばんメーカーの下請けとして発展を遂げてきましたが、近年は自らメーカーとなってブランドを発信する企業も増えつつあります。2013年には豊岡まちづくり(株)が産地のオリジナルバッグを扱うショップ「アルチザンアトリエ」や職人育成学校を併設した「豊岡カバン・アルチザン・アベニュー」を開設。2018年9月には東京に地域ブランド「豊岡靱」を販売する初の直営店「KITTE丸の内店」がオープンしました。豊岡靱ブランドのさらなる向



城崎温泉は文学作品の舞台にもなった。大谿川沿いの風情溢れる景観を眺めながら7つの外湯をめぐる



但馬の各漁港で水揚げされるズワイガニは松葉ガニと呼ばれ、冬を代表する味覚だ



城崎国際アートセンターは、舞台芸術を中心に、アーティストが滞在しながら創造活動を行う拠点

クシヨップを実施するなどして、子どもたちが一流のアーティストと交流する機会を積極的に設けています。

### コウノトリの野生復帰を環境教育に生かす

コウノトリの野生復帰の取り組みが全国的にも注目を集めています。かつては日本全国各地に生息していたコウノトリ。1971年には日本でその姿が見られなくなっていました。最後の生息地であった豊岡でコウノトリ野生復帰の取り組みが始まり、人工飼育開始から25年目、ついにコウノトリのヒナが誕生。2005年に野生復帰に向けた試験放鳥がスタートし、現在140羽ものコウノトリが自然界で羽を広げるまでになっています。

豊岡市では、コウノトリをテーマに環境と経済を両立させる「豊岡市環境経済戦略」を推進。安全・安心な農作物を生産するための「コウノトリ育む農法」に取り組むほか、生き物調査や、湿地・ビオトープの設置を通じた環境教育にも力を入れています。「コウノトリ育む農法」でつくられた農作物をブランド化し観光



かつて絶滅の危機に瀕したコウノトリ。試験放鳥された個体が自由に空を舞うところまで回復した

上が期待されています。

また、2014年、演劇やダンスなどの舞台芸術に特化した滞在型の創造活動の場として城崎国際アートセンターがオープンしました。毎年国内外の選ばれたアーティストが滞在し、その創作過程を地域の方々に公開したり、市内小・中学校でのワー

振興にもつなげています。

養父市では2014年5月、中山間地域農業における改革拠点として国家戦略特区の指定を受けました。これを受け、高齢化の進展や耕作放棄地の増大などの課題を抱える中山間地域において、民間事業者と連携した取り組みによる耕作放棄地の再生、農産物を付加価値の高い食品に加工するなど収益を生み出せる農業の実践など、全国の中山間地域活性化のモデルとなる取り組みが進められています。

### 交通ネットワークの整備が進む

但馬地域では医師不足が心配されているところですが、公立豊岡病院の救命救急センターが中心となってドクターヘリを活用して救命率の向上につなげ、全国から注目を集めています。



ドクターヘリは但馬救命救急センターとの連携で、緊急患者の救命率向上に大きく寄与している

また、東西、南北軸での基幹道路の整備が進んでいます。神戸・阪神・播磨

とを結ぶ道路として整備中の北近畿豊岡自動車道路は現在、日高神鍋高原ICまで延伸され、豊岡までのルートが進んでいるところです。2017年には、鳥取ICから宮津天橋立ICまでを結ぶ山陰近畿自動車道のうち余部一浜坂間（浜坂道路）が開通しました。また、「コウノトリ但馬空港」は、羽田空港まで伊丹空港乗り継ぎで最短で2時間半で行くことができ、2018年5月には新型機が導入されました。今後、交通ネットワークの整備によりアクセスが良くなることで、国内外から但馬にますます多くの人を呼び込むことになりそうです。